

## 富士山

概況（平成 15 年 10 月）

**火山活動は、落ち着いた状態が続きました。**

高周波地震、低周波地震の回数とともに少ない状態で、火山性微動は観測されませんでした。東北東山腹に新たな噴気孔が確認されました。

### 地震活動の状況

山頂に設置した地震計の記録によると、高周波地震、低周波地震の回数とともに少ない状態です（表 1）。2000 年後半から 2001 年前半にかけてやや活発化した低周波地震活動も、その後は落ち着いた状態が続いています（図 1～5）。火山性微動は観測されませんでした。

表 1 地震日別回数表（富士山）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日		旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

短期・日別 地震活動推移（最近 2 年間の高周波地震・低周波地震の日別回数）

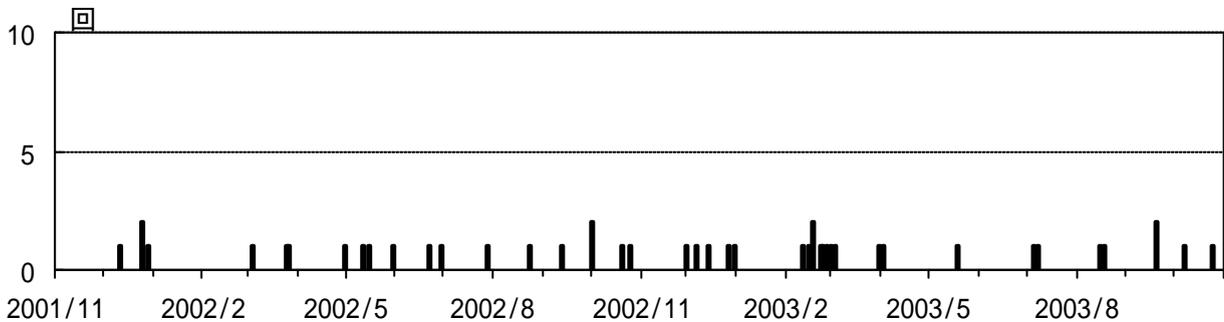


図 1 富士山 高周波地震日別回数（2001 年 11 月 1 日～2003 年 10 月 31 日）

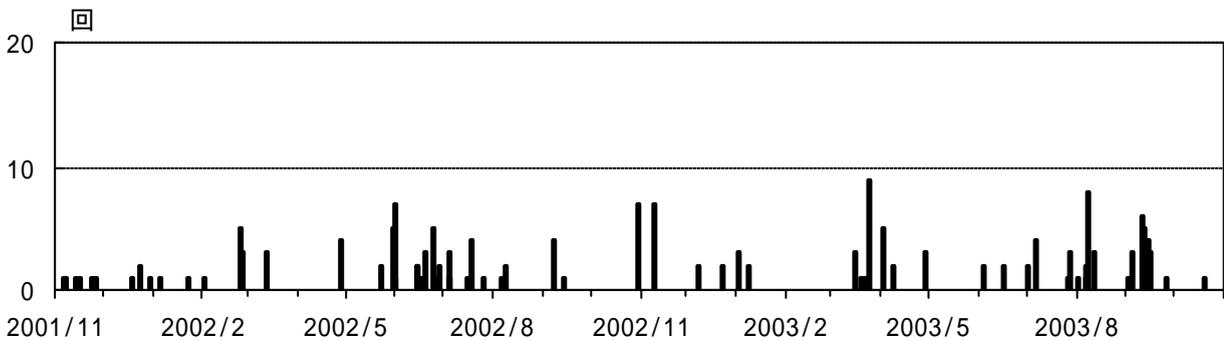


図 2 富士山 低周波地震日別回数（2001 年 11 月 1 日～2003 年 10 月 31 日）

長期・月別 地震活動推移 （1995年6月以降の高周波地震・低周波地震の月別回数）

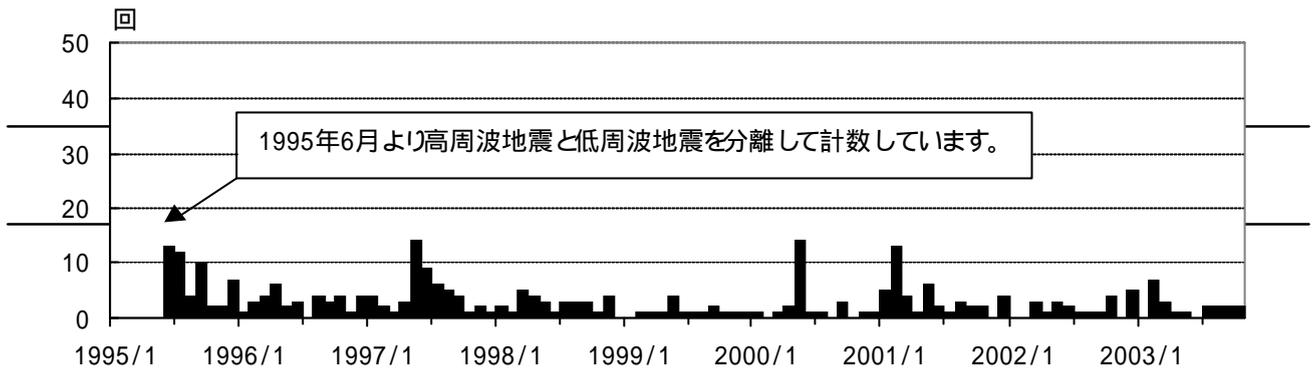


図3 富士山 高周波地震月別回数 (1995年6月～2003年10月)

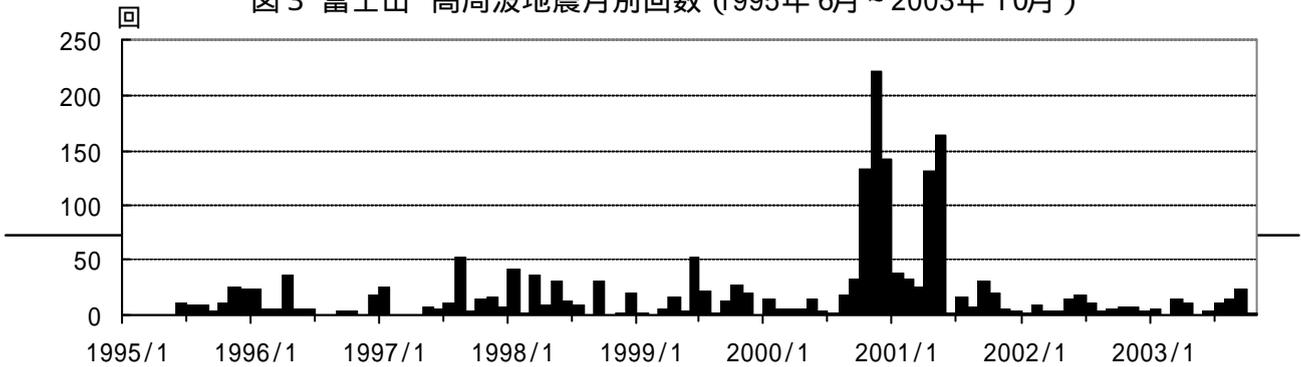


図4 富士山 低周波地震月別回数 (1995年6月～2003年10月)

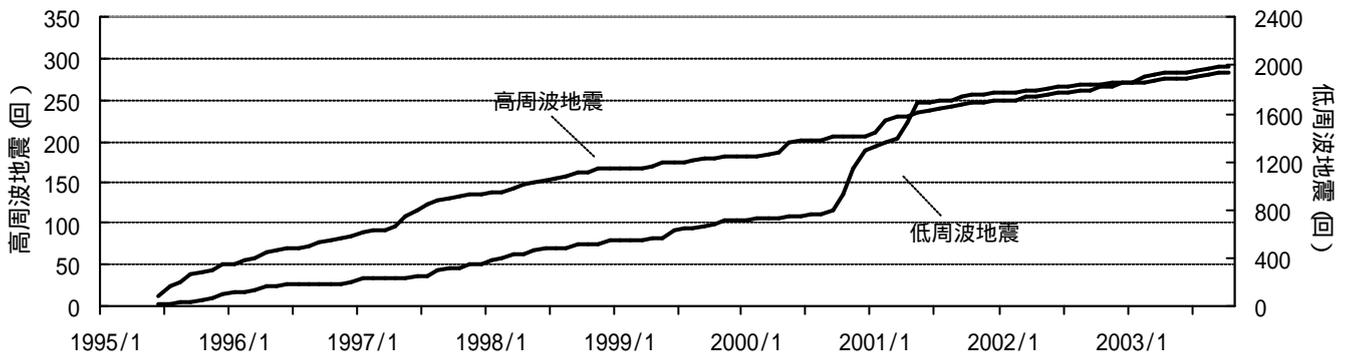


図5 富士山 地震積算回数 (1995年6月～2003年10月)



山腹の地面の陥没と噴気

気象庁では、10月24日に職員を現地に派遣し、状況を調査しました。結果は以下のとおりです。

現時点で、地震活動等他の観測データに異常な変化は観測されておらず、これらの地面の陥没や噴気が噴火活動と直接関連するものとは考えていません。

1. 10月24日の観測では、前回（9月22、30日）観測された陥没に加え、新たな陥没が確認されました。

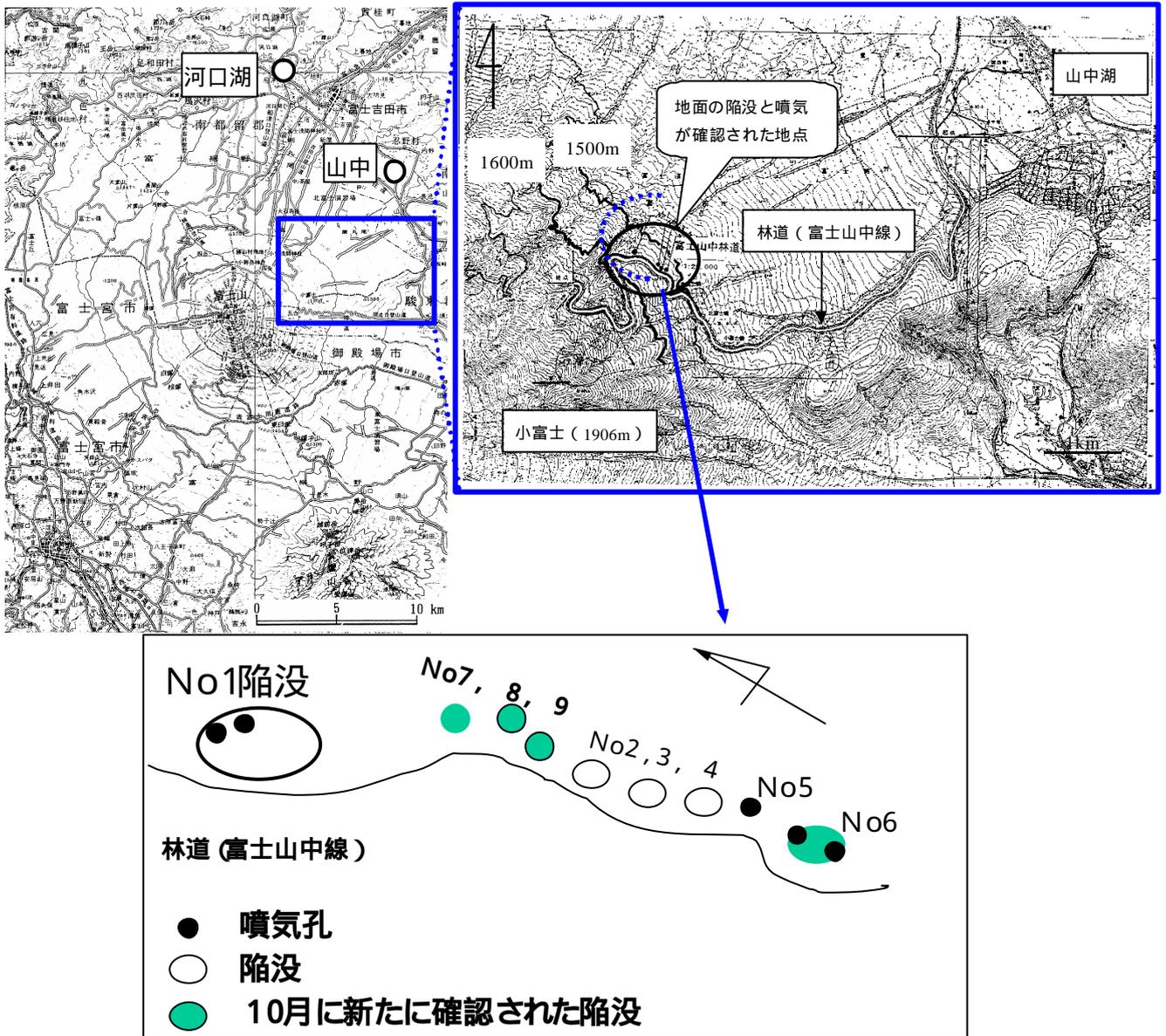


図6 地面の陥没と噴気の観測された位置

左上 国土地理院 1/200,000地形図「甲府」及び「静岡」より

右上 国土地理院 1/25,000地形図「須走」に山梨県消防防災課が加筆した資料より

下 地面の陥没と噴気孔の位置関係

- 2 . 6 陥没（今回、新たに確認された陥没の中で最大）には、数ヶ所に穴があり、内 2ヶ所でごく弱い噴気が確認されました（図 7）。噴気の高さはいずれも 50 cm以下でした。噴気温は 26.5 と 30 でした。



図 7 6 陥没の全景（10月 24日撮影）

- 3 . 1 陥没の噴気孔付近がさらに陥没し、隣に新たな噴気孔ができて、高さ約 1 mのごく弱い噴気が出ているのが確認されました（図 8）。  
また、9月 22日から行った噴気温の連続観測では、降水によると思われる変化は見られるもののそれ以外には大きな変化はありませんでした。（図 9）



図 8 1 陥没内の新たな陥没と噴気孔

水色は陥没した領域、赤は新噴気孔（陥没深さ20 cm、噴気温度 39.9度）

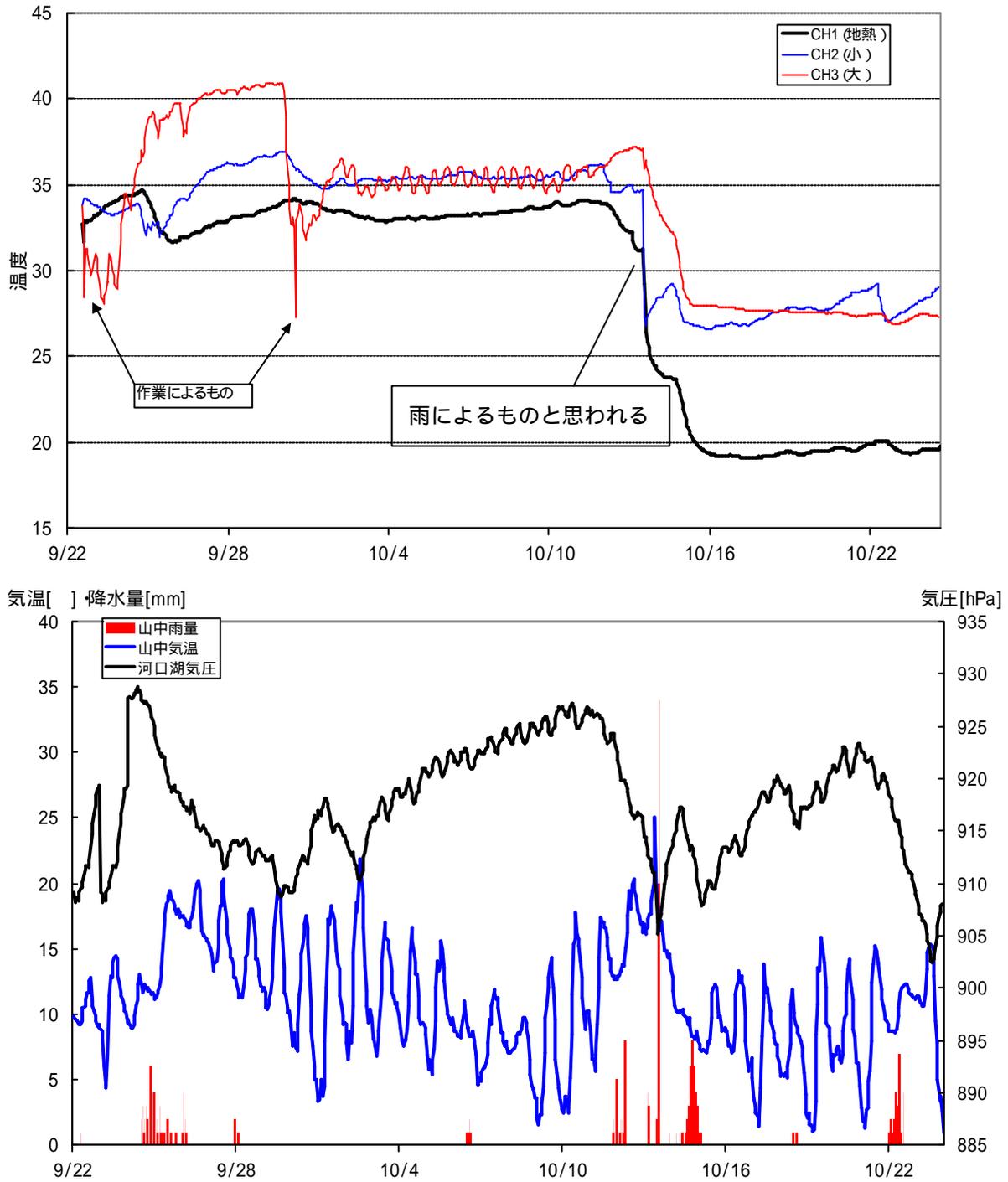


図9 1の噴気及び地熱の温度変化(9月22日~10月24日)(上)とアメダス気象データ(山中、河口湖の場所は図6参照)  
 10月中旬の噴気及び地熱温度の下降は降水に対応している

